

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校教育方針

令和4年4月1日

I 建学の精神

「白梅の花実両全」の姿

寒苦風雪に耐え、百花に先がけて香り高く開花し、やがて立派な実を結ぶ白梅の姿。

II 教育目標

「ひたむき」「誠実」「謙虚」の学校づくり

社会人として求められる確かな学力や豊かな人間性を身につけさせ、自己の将来を見つめた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援すると共に、「国際性・社会性・実用性」を重視した教育を推進し、国際的視野を持った、**社会に貢献できる人材の育成に努める。**

III 目指す学校像

1 生徒・教職員、共に学び続ける学校

生徒：生徒一人ひとりが常に高い志をもって学び続け、確かな学力の向上を図ります。

教員：授業改善のための校内研修や自主研修を行い、授業力の向上を図り、分かる授業、学びが実感できる授業を展開します。

2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校

面接指導を充実させ、生徒理解を図りながら、生徒と教職員との信頼関係を構築し、良好な人間関係づくりに努めます。

3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校

学習指導では、少人数指導や習熟度別指導を生かして、生徒一人ひとりの教育的ニーズ(習熟度)に応じた懇切丁寧な指導、きめ細かな指導を実践します。また、不登校生徒や発達障害の傾向をもった生徒に丁寧にに関わり、その改善を図りながら、全生徒が安定した学校生活を送れるようにします。

4 生徒一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校

キャリア教育を積極的に推進し、生徒の将来設計や人生設計の動機づけとなる機会を提供するとともに、生徒一人ひとりの社会的・職業的な自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成を図り、個々の生徒の進路実現を支援します。

IV 本年度の重点目標

1 学習指導の充実

本年度から新しい教育課程が新1年生から学年進行で実施されることを踏まえ、その変化に対応した指導内容と指導方法の研究を継続して実施する。

- (1) 教師としての教科の専門性、指導技術の向上を図るために、「**学び続ける教員**」としての自覚をもち、日々研鑽に励む。
- (2) 「**楽しく・わかりやすい授業**」にすべく、校内研修(研究授業)や自主研修(教材研究)に励み、教科の指導内容、指導方法の工夫・改善を図り、授業を充実させる。
- (3) 本年度を **ICT教育2年目**と位置づけ、教科指導にiPad等のICT機器(ツール)を積極的に・効果的に活用し、「**楽しく・わかりやすい授業**」を実践する。
- (4) 少人数指導や習熟度別指導を生かして**懇切丁寧な指導・きめ細かな指導**を行い、基礎的・基本的な内容や発展的な内容の定着を図る。
- (5) 生徒の**家庭学習の習慣化**を図り、予習・復習の学習習慣を定着させ、確かな学力の向上を図る。
- (6) 課外授業の充実を図ると共に、生徒の自主学習を支援し、**生徒自身の学び**を深める。

2 キャリア教育の推進

- (1) 自分の将来設計・将来展望の中に建設的に上級学校等への進路を位置付け、自分の将来に対して**夢や希望**が持てるよう指導する。
- (2) キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、進路別見学会、進路講演会、大学出前授業などの機会を提供し、進路(進学・就職)に対するしつかりとした**動機付け**を図る。
- (3) 個々の生徒の進路希望、学力の実態及び今後の発展性などを常に把握しながら、**より上位の進路目標**を設定させ、その達成に向け全力を傾ける。

3 心の教育の推進

- (1) 生徒への**気配り・心配り**などの配慮を旨とし、生徒理解のための教員と生徒との一対一の関係を重視した**教育相談**を日常的に実施し、生徒との信頼関係を構築して、心の教育を推進する。
- (2) **はるかぜ道徳**を通して、人間としての在り方・生き方の教育を推進し、豊かな人間性を育む。
- (3) 東風クラブ(カウンスル、コミティー、パーティー、クラス)や学校行事、部活動などの**特別活動を推進**し、生徒間の交流を活性化させ、生徒の**自主的・実践的な態度**や**社会性**、**自尊感情**・**自己有用感**などの人間性を育む。
- (4) **ボランティア活動**や**挨拶・服装等の向上**を図るマナーアップ運動を展開し、社会人として必要なルールやマナーの基礎を育てる。

4 不登校生徒や発達障害の傾向をもった生徒への支援の充実

- (1) 不登校生徒や発達障害の傾向をもった生徒に対して、**学校あげて全教職員が一致協力して組織的に対応**する。その集約は、**教育相談担当教員**が行い、具体的な対応の方策を提案する。
- (2) 不登校生徒に対して、担任、教育相談担当教員及びスクールカウンセラーが**定期的にカウンセリング**を行い、また、**家庭訪問**や**電話連絡**を通して**保護者との連携**を密にし、**外部の相談機関**などの協力を得ながら、**ケース会議**を開いて具体的な係わりを明確にし、**不登校の改善**を図る。
- (3) 発達障害の傾向をもった生徒に対して、その**障害の把握と理解**を図り、**ケース会議**を開いて個々の**生徒への関わり**を明確にし、全教職員の**共通理解**のもとに対応し、その対象生徒が**安定した学校生活**を送れるようにする。

5 開かれた学校作りの推進と募集定員の確保

- (1) **広報誌**(学校案内、データブック、各種パンフレット)を発行し、また、**ホームページ**を充実させることにより、**情報発信**を積極的に行う。
- (2) 学校行事(東風祭、芸術鑑賞会など)や授業(教科、道徳など)を地域や保護者、中学生などに**一般公開**することにより、本校の教育活動の理解と周知を図る。
- (3) 中学校や塾の教員対象の**説明会**を実施し、また、中学校や塾を積極的に**訪問**することにより、中学校や塾との**連携強化**と教員との**信頼関係の構築**を図る。
- (4) 学校見学会、入試説明会、入試対策学習会及び入試相談会を実施し、本校への入学の**動機づけ**を強固なものとする。

V 生きる力を育む「東風教育」

- 1 **コース制**・・・特別進学コース、進学コース、医療・看護進学コース
- 2 **個に応じた教育**・・・少人数指導、習熟度別指導、個別面談の実施
- 3 **はるかぜ道徳**・・・週1時間全学年で実施、公開授業
- 4 **東風クラブ**・・・カウンスル、コミティー、パーティー、クラス
- 5 **課外授業**・・・平日課外・土曜課外・代々木ゼミナールサテライン講座
- 6 **学校行事**・・・校外研修、東風祭、はるかぜ感謝祭、プラムカップ、修学旅行、歩く会、芸術鑑賞会、予餞会
- 7 **ICT教育**・・・iPad等のICT機器を使った「楽しく・わかりやすい授業」の実践

これまでの教育実践を振り返って思うこと！！

1 教育(指導)に「ビジョン」をもってほしい！

教師は、生徒に「このような人間になって欲しい」とか「こんな人間にしたい」という、指導のベースになる**ビジョン**、**教育理念**をもつことが必要である。

求めるビジョンがなかったなら、子どものさらなる成長は期待できない。

2 学び続ける教師であってほしい！

教師は生徒にとって常に人間としての魅力を感じられる存在である。**人生のモデル的な存在**である。教師は、常に、生徒に**良い動機づけ**が与え続けなければならない。

そのためには、教師は、常に、光輝いていなければならない。光輝いているために、常に学び続けていなければならない。その**精進している教師の姿**に、人間としての魅力を感じ、生徒は共鳴し、自らの成長を誘起する。

3 面接指導を徹底してほしい！

「**教師と生徒との人間関係づくり**」がすべての教育活動の土台である。

教師と生徒との**良好な信頼関係**を構築するために、あらゆる教育活動の場面を利用して、**生徒面談**を実施し、生徒自身のこと、保護者のこと、取り巻く環境（学習環境、友人関係、社会環境、家庭環境など）などについて理解しておくことが必要である。

担任は、クラスの生徒一人ひとりについて、熟知している状態であって欲しい。

教員間の情報交換、意思疎通を図る必要がある。

4 楽しく・分かり易い授業の実践してほしい！

楽しく・分かり易い授業は、納得、感動や心への共鳴をもたらし、その結果として、興味・関心などの知的好奇心を喚起し、さらに、やる気などの自ら学ぶ意欲につながり、生徒の**学習への動機付け**となる。

この楽しく・分かり易い授業にできるかどうかは、**教師の力量**と**教材研究**にある。教師の力量は、先輩を教育上のよき師として仕立てあげ、盗み、真似ることから始まり、精進し、さらに高められる。また、教材研究は、教科の指導内容・方法・技術の研究である。基礎・基本は何か。学習形態の工夫、教材教具の開発、体験・探究活動の実践など、さらに研究し続けて欲しい。

授業は、共通事項(基礎・基本)の理解であり、課外は、発展的な内容の修得(受験への対応)である。

外部へのメッセージ(本校のアピールポイント)

1 本校では、生徒一人ひとりを大切にしている教育を行っています。

生徒一人一人の能力や適性に合った教育、勉強の得意な生徒も勉強の苦手な生徒も、学校になかなか来られない生徒も、分け隔てなく、まんべんなく、すべての生徒に手を差し伸べる、支援・援助する教育を展開しています。

定期的に生徒面談を行い、生徒理解と生徒との信頼関係に努めています。学習指導では、少人数指導や習熟度別指導を生かして、生徒一人一人の教育的ニーズ(習熟度)に応じた懇切丁寧な指導、きめ細かな指導を実践します。また、不登校傾向のある生徒や発達障害の傾向を持つ生徒に丁寧に関わり、安定した学校生活を送れるように支援しています。

2 本校では、特に、心の教育に力を入れています。

本校独自の「はるかぜ道徳」を実施しています。

県立学校では、1・2年生しか実施していませんが、本校では、1年生から3年生まで週1時間「はるかぜ道徳」を行い、豊かな心や人間性を育てています。

3 本校は、夢が語れる、生徒が主役になれる学校です。

本校には、生徒自身の組織である「はるかぜクラブ」があります。

生徒一人ひとりに役割を与え、活躍できる場を提供しています。生徒の居場所が確保されています。

Ⅲ 中期的目標

しっかりとした社会人として地域社会に貢献できる人材、各界でリーダーとして活躍できる人材を育成するため、次の目標を設定する。

- 1 一人一人の生徒の将来設計・将来展望の中に建設的に大学進学等の進路を位置付け、現役の大学進学率90パーセント以上、国公立大学合格100人以上、難関私立大学への合格を目指す。
- 2 生徒一人一人の学習意欲を高め、確かな学力を身につけるさせるため、授業改善のための校内研修や自主研修を行い、授業力の向上を図り、分かる授業、学びが実感できる授業を構築する。
- 3 教師と生徒との人間関係づくりがすべての教育活動の土台であることを旨とし、教育相談等の機会を設けて、教師と生徒との信頼関係の構築を図り、心の教育を推進する。
- 4 道徳の時間、亀陵タイム、特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)、部活動等を充実させ、豊かな人間性や社会性を育む。
- 5 広報活動や授業公開、Webページによる情報提供等を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進し、地域に信頼される学校づくりに努める。